

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業
第3期中期計画フォローアップ（令和3年度実績）
【九州大学・CSTIPS】

1. 令和3年度における活動の概要

(総括)

第3期中期計画の初年度は、本拠点の人材育成プログラムである「科学技術イノベーション(STI)政策専修コース」を履修証明プログラムに発展させるための移行期に当たる。コース受講者は着実に増加し、履修証明プログラムの順調なスタートに繋がった。研究・基盤、共進化、ネットワーキングに関連する活動も、ほぼ計画に即して進展した。

①人材育成

(活動の概要)

前年度に引き続き「科学技術イノベーション(STI)政策専修コース」10科目の運営に当たるとともに、第3期中期計画に即して同コースを履修証明プログラムに発展させる取り組みを進めた。令和3年度における同コースの履修者数は81名（延べ118名）で、前年度の52名（延べ71名）を大幅に上回り、過去最高となった。また、同コース修了生（4科目8単位以上の単位修得者）を新たに7名認定し、過去9年間の合計修了者数は53名（うち科目等履修生28名）に達した。

同コースの運営は本年度が最後となり令和4年度より履修証明プログラム「科学技術イノベーション(STI)政策人材育成プログラム」として再スタートさせることになる。同プログラムの開設準備に当たっては、実施要項を策定後、責任部局となる大学院経済学府の教授会及び全学の教育企画委員会での審議・承認を経て、履修者募集活動を推進した。その結果、9名の志願者を得ることができ、経済学府教授会の議を経て受け入れを決定した。

以上のほか、人材育成に関する計画には、拠点間共同事業の一環を構成する「コア・カリキュラム編集委員会」が含まれる。同委員会には引き続き永田センター長が委員として参画し、本年度より副委員長に就任したことにより、コア・コンテンツの普及を目的とする各拠点科目担当者宛の活用意向調査と、授業後に教員及び学生を対象として実施する調査の質問票を設計した。

(KPIの達成状況)

本年度中の達成目標として、以下の2点を計画していた。

- ・履修証明プログラムの募集要項を策定し、学生募集を開始する。
- ・コアコンテンツの活用状況と次年度のレビューへの協力移行を把握するための調査票の設計等に協力する。

これらの目標は、いずれも計画通り達成している。履修証明プログラムの初年度志願者数は、ほぼ見込み通りである。

②研究・基盤

(活動の概要)

第3期中期計画に即して東アジアの環境イノベーションをテーマとする部局横断的プロジェクトの発足を準備するため、当年度のSTI政策シンポジウムのテーマを「総合知で創る東アジアの環境イノベーション」と設定し、本学の工学研究院、応用力学研究所、経済学研究院の研究者を講演者・パネリストとして招聘するとともに、インドネシアとタイの大学で環境問題に取り組む本学OBによる現況報告を得て、学際的な共同研究の可能性を探索した。

なお、文部科学省科学技術・学術政策研究所との連携は、引き続き永田が客員研究官として「民間企業の研究活動に関する調査」の取りまとめ等に協力する形で実施した。

(KPIの達成状況)

本年度の達成目標として、以下を設定していた。

- ・「東アジアの環境イノベーション」をテーマとするSTI政策シンポジウムの開催に際して関係分野の研究者に共同研究プロジェクトへの参加を呼びかける。

この目標については、上記の通り達成した。

③共進化

(活動の概要)

CSTIPSは、本学が産学官連携事業として開始した「地域政策デザインスクール」の運営を、共進化を実現するための独自の活動として位置付けている。当年度も5つの基礎自治体の協力を得て同スクールを開講し、30名の受講者（うち本学院生5名）が自治体の提起する課題を解決するための政策立案に取り組んだ。

また、本年度は第2期の共進化実現プログラムに採択された下記4件のプロジェクトを推進した。

- ・「イノベーション・エコシステムのハブ拠点が有する自立性・持続可能性の要件に関する調査研究」（研究代表者：永田晃也、行政担当者：文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課）
- ・「人文学・社会科学と自然科学の連携活動・インセンティブ・アウトカムの可視化—九州大学と東京大学の研究者実態調査」（研究代表者：小林 俊哉、行政担当者：文部科学省大臣官房政策課政策推進室／文化庁国語課）
- ・「新型コロナウイルス感染症による暮らしへの影響についての実証分析—オントロジー工学及び経済分析からの接近」（研究代表者：諸賀加奈、行政担当者：文部科学省科学技術・学術政策局研究開発戦略課）
- ・「産学連携・地域連携活動に積極的に取り組む研究者のインセンティブ構造に関する研究」（研究代表者：鈴木千賀、行政担当者：国立研究開発法人防災科学技術研究所、文部科学省大臣官房政策課、文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課）

(KPI の達成状況)

共進化に関する本年度の達成目標は以下の通りである。

- ・「地域政策デザイン論」の受講者数、協力自治体数を前年度と同程度の規模に維持することを目標とする。

また、KPI 達成目標を以下の通り設定していた。

受講者数：30 名程度、協力自治体数：5 団体程度

これらは、いずれも目標通り達成している。

④ ネットワーキング

(活動の概要)

本拠点は、第 3 期計画期間中のネットワーキングとして、「STI 政策専修コース・アラムナイ・ネットワーク (STAN)」の構築を掲げている。令和 3 年度には、その設置準備を計画していたため、STI 政策専修コース修了生の名簿整理を行った。

また、拠点間共同事業のうちサマーキャンプの開催は、ネットワーキングとして位置付けられている。本年度のサマー・キャンプの開催に際しては、諸賀助教がグループ・テーマ「ポストコロナを見据えたライフスタイル・イノベーションによる持続可能な脱炭素社会の実現」を提案し、同グループのファシリテーターを務める他、学生 1 名、教員 3 名、学術研究員 1 名が参加した。

(KPI の達成状況)

ネットワーキングに関する本年度の達成目標は以下の通りである。

- ・ STI 政策シンポジウムを開催する。
- ・ STI 政策専修コース修了生に STAN への参加を呼びかけ、初期登録者を確保する。

また、KPI 達成目標を以下の通り設定していた。

STAN 登録者数:20 名

STI 政策シンポジウムは前述の通り計画に即して開催した。

STI 政策専修コース修了生に対する STAN への参加呼びかけは計画に若干の遅延が生じており、令和 4 年度第一四半期中に実施する予定である。遅延の理由は、修了生名簿のデータ補完に想定以上の時間を要したことにある。同コースの過去 9 年間の修了生 53 名のうち継続的に連絡が取れている修了生は約 30 名であった。他の修了生について可能な限り連絡先に関する情報を補完した上で、一斉に参加呼びかけの配信を行うこととしたい。

⑤ その他特記事項

本年度の STI 政策シンポジウムは、オンラインにより海外からの報告者を得て実質的な国際シンポジウムとして開催することができた。

2. 事業終了を見据えた計画に対する進捗状況

本拠点では、補助事業終了後に人材育成プログラムを自立化させるため、従来の「科学技術イノベーション（STI）政策専修コース」を、履修証明プログラム「STI 政策人材育成プログラム」として再スタートさせるとともに、同プログラムの科目等履修生等を対象として、既存の学位プログラムへの進学指導と進学後の研究指導を一貫してサポートする「STI 政策人材開発トラック」を設置することとした。

また、履修証明プログラムと「STI 政策人材開発トラック」の責任部局を経済学研究院とし、これらの運営を担う教授 1 名を総長裁量により経済学研究院に配置することが決定した。この人員配置に伴う採用人事は令和 3 年度中に成立し、採用された教授は令和 4 年 4 月 1 日に着任している。同教授は着任後、本拠点の協力教員として既に人材育成プログラム等の運営に係る協議に参画している。

3. 中期計画の見直しのポイント

該当なし